

今月の聖句

あなたがたは神に愛されている子どもです

(エフェソの信徒への手紙 5章1節)

園長 奥 晋一郎

「一人ひとりを大切にする」

梅雨の季節となりました。雨が多く、じめじめした気候で過ごしにくいと感じる季節ですが、秋の豊かな実りのために大切な季節でもあります。また、今月中旬にはプールも始まります。年少のばら組の子どもたちもこれまでよりも、友だちを意識して遊ぶようになってきています。

以前、「尾木ママの7つの人生力」(尾木直樹著。海竜社)という本を読みました。小木さんは「尾木ママ」と呼ばれ、テレビで活躍されている方です。その本の中で尾木さんは、自己肯定感には「基本的自己肯定感」と「社会的自己肯定感」の2種類があることを伝えていきます。社会的自己肯定感は、「〇〇ができるから」「こんな良いところあるから」など条件付きで、自分の存在を認めるというとらえ方です。尾木さんは、このとらえ方は、場合によっては長所の少ない子どもをマイナスの評価でとらえてしまい、その結果、子どもが自己否定する方向に進めてしまう危険性があるのでよくないと、尾木さんは主張しています。

それに対して、基本的自己肯定感とは子どもが生まれてきた瞬間から親から全面的に肯定され、受け入れられてきたという思いを持つとらえ方です。その結果、自分のありのままの存在価値を認め、自分を愛することができ、重大な場面で自己決定ができていく人に成長していくと主張しています。

この基本的自己肯定感、これは育成幼稚園が大切にしている「子どもたち一人ひとりを大切にする」というキリスト教保育と重なっていると思いました。キリスト教保育は子どもたち一人ひとりの存在を神様から与えられたかけがえのない存在として肯定的にとらえ、大切に育てる保育です。このことを覚え、日々のお祈り、毎週火曜日に行うお礼拝をこれからも行っていききたいと思います。